

議会と語る会を開催

議会基本条例に基づく議会報告会「議会と語る会」は、10月22日から11月11日までのうち5日間にわたり行いました。今回はコロナ禍での開催となったことから、「3密」を避けるため常任委員会ごとに所管する市内各種団体と意見交換をしました。さまざまな意見や要望が寄せられましたので、その一部を紹介します。（●は市長に申し入れをした項目です。）

市交通指導隊

●隊員の確保と報酬面の充実

- ・定員30人に対し現在16人で活動している。高齢化が課題で隊員の確保が急務である。
- ・隊員の報酬や出動手当について検討してほしい。



令和3年 交通指導隊初点検式

●機材等の充実及び保管場所

- ・現在トランシーバーが4台あるが、配置等の状況によっては不足するので、台数を増やしてほしい。
- ・各種機材やこれまでいたただいた感謝状などの保管場所がない。会議をする場所も必要なので、占有できるスペースが欲しい。

○道路等の改善

- ・市内各所の道路等において危険と思われる箇所があり、改善が必要である。

市観光物産協会

●交流人口拡大のための協働

- ・交流人口拡大の観点からも本市の観光に対する期待は大きいと感じる。より広く充実



観光物産協会の活動拠点まちの縁側

した体制の下、引き続き支援および協働の推進をお願いしたい。

市PTA連合会

●通学路の整備

- ・スクールバスの運行が縮小し徒歩通学となるので、児童生徒の安全確保のためにも通

学路整備を行ってほしい。

●新型コロナウイルス対応

- ・学校行事等の中止、延期や内容の変更に ついて、保護者に相談なく決まる事例があるが、事前に説明してほしい。
- ・学校休業時の子どもたちのストレス発散の機会や「心のケア」について、カウンセリングの充実を図ってほしい。
- ・学校休業時に子どもたちのゲーム時間が多くなる。リモートワーク等のシステムを活用し、有意義な時間が過ごせるようにしてほしい。
- ・学校休業に伴う休暇を取得しづらい職場もあるので、市としても各企業に協力要請等を行ってほしい。

○企業誘致

- ・都市部で働いている同年代の友人から実家に帰ってきたという声がある。帰りたいという声に合う仕事がない



市PTA連合会との意見交換

広田湾漁協青年部

●残渣処理（漁業系廃棄物）に係る補助

- ・残渣処理に対する補助を継続してほしい。
- ・水産業関連で海岸等に散在している廃プラスチック製品類の処理に対する啓発支援を強化してほしい。

●力キ殻の有効活用

- ・力キ殻を粉碎して製品化されている力キ殻石灰は、有機栽培に適した土壌の改良に効果があるとされ、水質浄化作用もあることから、小友浦に投入されている残土への混入やオーガニックランドにおける有機栽培の肥料にするなど活用を検討してほしい。



力キ殻残渣（脇之沢漁港）

○外国人の人材受け入れ

- ・水産業においても人材不足は深刻である。技能実習生の受け入れなど外国人の人材受け入れのための施策の普及と強化を検討してほしい。

○水産資源の管理

- ・現在、国ではTAC（漁獲可能量）制度により海洋生物

市森林組合

●補助の拡充

- ・再造林や担い手育成、山林管理に係る事業を充実させるため、補助金の拡充を検討してほしい。
- ・松くい虫駆除の補助金はありますが、他の樹種も対象となるよう、補助対象を拡大してほしい。

●自伐型林業従事者と森林組合の交流

- ・自伐型林業従事者は林業に従事する数少ない担い手であり、いずれは定住して地域の林業を支える人材となり得る。林業の担い手不足解消につながるためにも交流のきっかけをつくってほしい。

●市有林の通年管理

- ・市有林の伐採は年度後半の



市森林組合木材集積場（竹駒町）

○森林の所有者

- ・森林所有者が不明、不在の場合が多く、支障木の伐採、松くい虫の駆除作業など所有者の承諾を得なければならない事業に影響が出ている。事業を円滑に進めるためにも所有者を特定する仕組みをつくってほしい。

- ・森林所有者が不明、不在の場合が多く、支障木の伐採、松くい虫の駆除作業など所有者の承諾を得なければならない事業に影響が出ている。事業を円滑に進めるためにも所有者を特定する仕組みをつくってほしい。（担当 大和田加代子、伊藤勇一）

市民要望を市長に

本市議会の福田利喜議長、大坂俊広聴広報特別委員会委員長、藤倉泰治広聴小委員会小委員長の3人は12月10日、市長室を訪れ、戸羽市長に対し、「議会と語る会」で寄せられた市民からの要望や提言のうち、主要10項目について申し入れしました。

戸羽市長は、「解決すべき課題がたくさんあると認識しています。令和3年度予算の規模縮小が想定されるが、ふるさと納税制度による財源なども活用し、対処を検討したい」と述べました。（担当・松田修一）

